

平成28年度第3回川崎町議会（9月定例会議）一般質問通告一覧表  
その1

議員名	件名	要旨
1 櫻井 英夫	商工業振興について (町長)	<p>本町の基幹産業は第3次産業、すなわち中小企業である。大企業を誘致できれば理想的だが、もはや町には有効な土地もない。ならば飯塚、田川で先行している中小企業振興基本条例設置を検討し、商工業振興に道筋をつけるべきではないか。</p> <p>商工会議所、観光協会など経済団体との定期会議はもたれているか。</p>
	公園管理について (町長)	<p>①6月会議で中央公園設置条例を廃止したが、公園条例設置の意義をどう理解しているのか。西田原のボタ山跡の公園、安宅の田代の公園とトイレ、旧真崎駅前の公園と管理棟、大ケ原の森林公園、鮎返り親水公園と駐車場、戸山原の古墳公園など造りっ放しで後をどう管理活用するかが整理されてない。その原因はどこにあり、今後、誰がどの様に対応されるのか。</p> <p>②川崎駅裏は駐車場になっているが、中途半端である。交付金を活用し、公園などに再整備すべきではないか。</p>
	社会教育振興について (教育長)	<p>①社会教育振興基本条例の設置を求む。 社会教育関係の条例規則は19件設置されているが、ほとんど関係施設の設置条例である。川崎町社会教育のあり方については、教育委員会の基本方針等で謳われていると思うが、明確に基本条例を設置し基本プランを策定し町を挙げた推進体制を構築すべきではないか。見解を尋ねる。</p> <p>②学校教育と社会教育の連携推進を 学・社連携の促進が叫ばれて久しいが、まだまだ連携不足の観は否めない。学校は建物・設備、予算は町でも、それを使いこなす教師は県職員で構成され、町一般職員との交流も少なく、どうしても壁ができる。社会教育の振興に教員の協力は必要不可欠である。町と学校管理職や教職員組合と、どの様に合意形成を図るのか。見解を伺う。</p>
2 松岡 久代	成人式のあり方について	<p>①式典とは心に響くものではないでしょうか。 選挙も18歳からとなり、成人式も見直される日も遠くない様な気がします。 平穏無事に式典が終わる事を願っている関係者の思いでしょうが、20歳を大人と見直すなら人生のスタートとして心に残る式典であってほしいのですが、町長と教育長のお考えをお願いします。</p> <p>②卒業した中学校区毎に写真撮影をしているようですが、町外の中学校に行った方達の写真撮影の配慮はどうなっているのでしょうか。</p>
	移動図書館について	<p>①高齢化に伴う自宅療養や障がいになられた方、読書に勤しむ方は沢山いると思います。 優しい町づくりの一環として移動図書館をしたらいいのではと思いますがお答えください。</p>

平成28年度第3回川崎町議会（9月定例会議）一般質問通告一覧表  
その2

議員名	件名	要旨
3 繁永 英樹	職員による草刈りが メリットが大きいのか	公務員を目指して、努力してきた職員が、不慣れな外作業を命じられ、事故や本業への支障はないのか。
	中学統合の用地について	川中よりも合理的な場所があり、将来も小中一貫も視野に入れてはどうか。
4 手嶋 真由美	防災・減災の取り組みについて	住民の安全確保のための、各行政区や学校・施設などの避難訓練の実施計画や住民への避難所等の周知は怎么样了か。
	AEDの設置と講習会について	①町内でAED設置をしているのは何箇所ありますか。設置している所ではAED使用の講習会はしていますか。 ②緊急時に備え、町としてもAED講習会が必要ではないでしょうか。
	子育て世代への支援について	①子育て支援事業の中に、病児保育事業がありますが、本町での取り組みは難しいでしょうか。 ②現在、田川市に病時病後児保育室がありますが、田川市以外の方が利用する場合、利用料が倍になります。負担軽減のため、文書料か利用料の一部を負担していただけないでしょうか。
	中学生議会の開催を	中学生による議会の開催は、別の観点から子どもの成長を促せる場になるのではないかと思います。実施について検討していただけないでしょうか。
5 寺田 響	教育復興対策について	①平成28年度の全国学力テストの結果は9月20日に公開されることとなっていますが、前回（平成27年度）の結果よりかなり改善されていると聞いております。 この結果は、町と学校が連携を取り戻したと私は感じています。 しかし、これからの教育改善を推し進めるには、これらの数字だけではなく、現場（児童、生徒達がどのように授業を受けているか）を把握する必要があると考えますが、町長ならびに教育長の教育現場把握についての考えを伺います。 ②川崎町教育大綱を基に具体的な教育計画が必要だと感じますが、教育長の考えを伺います。
	光ファイバー整備について	本町の光ファイバー整備計画は、移住、定住、雇用、教育の場において強力な柱となると考えますが、現状どこまで計画が進んでいるのか伺います。
6 谷口 武雄	すばらしい子ども議会について	平成20年からスタートした子ども議会も、今年で16回と成りました。 この間、各小学校の代表者による約120項目の政策、報告、要望がありました。 特に平成27年11月に実施された、第15回子ども議会の四小学校（池尻小、川崎東小、真崎小、川崎小）チーム代表の質問等に対する現在までの対応、推進状況等について、ご答弁をお願い致します。

平成28年度第3回川崎町議会（9月定例会議）一般質問通告一覧表  
その3

議員名	件名	要旨
6 谷口 武雄	竹林の廃材を活かし、町おこしを	川崎町の安真木地域には、多くの竹林があります。その中には、雑竹林もあります。竹林を活かして、川崎町の活性化ができないでしょうか。 (例) 全国的には、竹太鼓、竹芸術を活かし、愛媛県松山市では、芸術村を開設。
	バリア・フリー教育の推進	①バリア・フリーの理解を深めてもらうための講演。 ②小中学校で体験学習の実施。 ③心のバリア・フリーの推進(高齢者、障がい者の思いやり)。
7 手嶋 康德	耕作放棄地の再生対策について (町長)	①農家人口が年々減少しており、また、高齢化も進んでいるが、本町の基幹産業である農業において、農産物を生産するための農地を、どのように維持管理していくのか。 ②年々荒廃した耕作放棄地が増加しているようですが、有害鳥獣(イノシシ、シカ、アナグマ等)も増加の一途をたどっており、現在、補助金により金網の設置による対策をしているようですが、今後、どのような多面的な対策を考えているのか。
	社会教育施設の管理運営状況について (教育長)	社会教育施設には、川崎町コミュニティセンター、川崎町勤労青少年ホーム、川崎町民会館、川崎町中央体育館、川崎町B&G海洋センター、川崎町民運動公園、川崎町三井運動場、川崎町ふれあい施設(安宅交流センター、大峰ふれあいセンター)等数多くの施設を維持管理されていますが、施設の老朽化が進み、利用者が安全で機能的に使用出来ているのか。
8 樋口 秀隆	3中学校統合における建設計画に住民と関係者の納得のいく理解が必要	地方創生では、人口の移住を図るとともにその流出を止めることが大きな目的のひとつである。3中学校の統合はその趣旨に則った施策のひとつでもある。 しかし、住民や関係者の多くが、統合先を川崎中学校用地にしなければならない差し迫った状況や事情等、それに関連する課題等の説明については一定の理解を示しながらも、その他の選択肢が否定されるにいたった内容について納得のいく説明が欲しいと考えている。 別の選択肢としては、町の東西南北の中央地点であり、公共交通機関である「西鉄バス」の運行路線沿いに建設することが考えられる。 このことのメリットは、(1)将来的に縮小が予想されているこの町において、新たな顔となり、明るく進歩的な町のイメージが作られ、地方創生の人口移入と流出抑止について大きな効果となる。(2)生徒の学習意欲向上、社会性の習得などに前向きに対応ができる。(3)スクールバスの運行計画について大幅な削減見直しが可能。等が考えられる。 ①町長、教育長の学校統廃合や小中一貫校への基本的な考え ②川崎中学校への統合計画以外に、町の中央地区での検討もされたと思うが、その内容。 また、現計画と検討された中央地区での計画との比較で、町の顔としてのイメージ、用地取得、期限の問題、財政面、利便性、教育上、スクールバスの検討、等について。 ③その他、校舎の耐用年数、耐震基準、廃校になる2つの校舎や敷地の有効利用等について

平成28年度第3回川崎町議会（9月定例会議）一般質問通告一覧表  
その4

議員名	件名	要旨
8 樋口 秀隆	川崎町コミュニティ スクールの実施内容 とその効果	①実施のねらいは。 ②なぜ1校だけなのか、複数の実施は可能なのか。 ③現在、それぞれの学校の運営について民間人とのかかわりは。 ④毎年一度の評価はどのような形、表現で行われるか。
9 千葉 加代子	就学援助について	①新入学（小学校、中学校）の学用品費等の支給希望者の申請要件と申請時期は。 ②平成28年度の受給者と支給時期は。 前倒しの支給は出来ないか。
	子どもの貧困対策等	①本町の貧困率は（世帯と子ども）。 ②民間主導の「子ども食堂」の開設・運営に町の助成は。 ③夫の妻に対するDVが子どもの心理的虐待につながりますが、心理的虐待とDVの関係についての対応は。 ④「子どもの権利条例」制定の進捗状況は。
	チャレンジ教室・課 外事業	①現状と各学校の講師について。 ②「アクティブ・ラーニング」や「小中高連携」等新しい手法の導入は。
	障がい者対策につい て	①役場・事業所の雇用人数と雇用率は。 ②先日、障がい者に対する事件がありましたが、それを防ぐための手段として、地域との交流や接点づくりの対策は。